

2021年卒業生調査の報告

調査対象：大学 IR コンソーシアムの調査希望 19 大学の学部卒業生
卒業年月：2006(平成 18)年 3 月, 2011(平成 23)年 3 月, 2016(平成 28)年 3 月
調査方法：Web アンケート
調査期間：2021 年 6 月 14 日～2022 年 3 月 31 日
有効回答数：4,391 件 内 芝浦工業大学 378 件（配布：3,232 件, 回収率 11.7%）

構成

1. 基本情報

- (1) 回答者の卒業年 (2) 回答者の性別 (3) 芝浦工業大学の学部・学科
- (4) 入学試験の形態 (5) 志望順位 (6) 高校卒業時と現在の居住地
- (7) 勤務時間外の学習時間（一週間あたり）

2. 授業や課外活動等への取り組み

3. 能力の変化

4. 大学時代の留学経験

5. 満足度

- (1) 教育・研究に対する満足度 (2) 大学時代の生活全般への満足度

6. 大学とのつながり

7. 初職

- (1) 初職の就業形態 (2) 初職の業種 (3) 初職の志望 (4) 初職の選択理由

8. 転職・離職

- (1) 転職・離職の経験 (2) 転職・離職の理由

9. 現職

- (1) 現職の就業形態 (2) 現職の業種（転職・離職の経験者について）
- (3) 従業員規模 (4) 勤務先での在籍年数 (5) 現在の勤務先での職種
- (6) 現在の職階 (7) 年収

10. キャリアパスへの満足度

11. 海外での勤務経験や業務における外国語の使用

12. 大学生時代に身につける能力の重要性

【卒業生調査 2021 年の要点】

1. 基本情報

・全大学の回答者は卒業後 5 年(2016 年卒)(36%)と「その他」(31%)が多い。本学は卒業後 5 年(2016 年卒)(43%)が多い。

2. 授業や課外活動等への取り組み

・本学は、専門科目やゼミ、実習、卒論・卒研は「熱心」が多い。一般教育科目とアルバイトは「やや熱心」が多い。そして、外国語科目や部・サークル活動、資格の取得、ボランティアは「やや不熱心」が多い。

3. 能力の変化

・高得点は「コンピュータの操作能力」「分析力や問題解決能力」「プレゼンテーションの能力」「他の人と協力して物事を遂行する能力」「数理的な能力」。比較的に低得点の項目は、卒後5年の卒業生について評価は改善している。改善の努力は今後必要。

4. 大学時代の留学経験

・「渡航したことはない」(81%)が最も多い。卒後5年の卒業生は留学経験者が増加。

5. 満足度

・教育・研究への満足度は「とても満足」と「満足」で4分の3を占める。大学時代の生活全般への満足度は「とても満足」と「満足」で8割以上を占める。

6. 大学とのつながり

・卒業生の78%は何らかのつながりがある。「同窓との付き合い」48%が多く、次に「ゼミや研究室の集まり」「クラブ・サークルの集まり」「恩師との付き合い」等。

7. 初職

・無期雇用(正社員)で就職は93%。主な業種は、「製造業」39%、「建設業」19%、「情報通信業」17%。志望する初職に8割が就いている。主な選択理由は、職種、業種、安定性、勤務地。

8. 転職・離職

・転職・離職の経験者は33%。最も多い理由は「ステップアップを図るため」36%。

9. 現職

・90%が無期雇用(正社員)。現職の主な業種は、「製造業」36%、「建設業」16%、「情報通信業」16%。従業員規模は「5,001名以上」33%が多い。在籍年数は、「5年以上10年未満」32%と「10年以上」29%が多い。主な職種は、「技術・研究職」54%、「ITエンジニア職」14%、「事務・企画職」12%。職階は、「一般職(役職なし)」61%と「監督職(係長・主任級)」26%が多い。年収は「400～600万円」44%が多い。全大学や理系と比べて、「600～800万円」26%、「800～1000万円」12%の割合が多い。

10. キャリアパスへの満足度

・キャリアパスには6割以上が満足(「とても満足」16%、「満足」48%)。

11. 海外での勤務経験や業務における外国語の使用

・本学の卒業生は、海外出張の経験や外国語で会話や議論、メールや文書のやりとりをする必要が全大学や理系より多い。該当しない卒業生は約半数。

12. 大学生時代に身につける能力の重要性

・「コミュニケーションの能力」、「人間関係を構築する能力」、「他の人と協力して物事を遂行する能力」、「分析力や問題解決能力」等、汎用的技能の重要性が挙げられる。

1.基本情報

(1) 回答者の卒業年

回答者は卒業後5年(2016年卒)の卒業生が多いです。芝浦工業大学は43%、全大学は36%を占めます。なお、全大学は「その他」も多いです(31%)。報告では、芝浦工業大学の卒業生を全大学と理系の卒業生と比べます。卒業年を軸とした経年変化は、今後、データが集まってきましたら報告します。

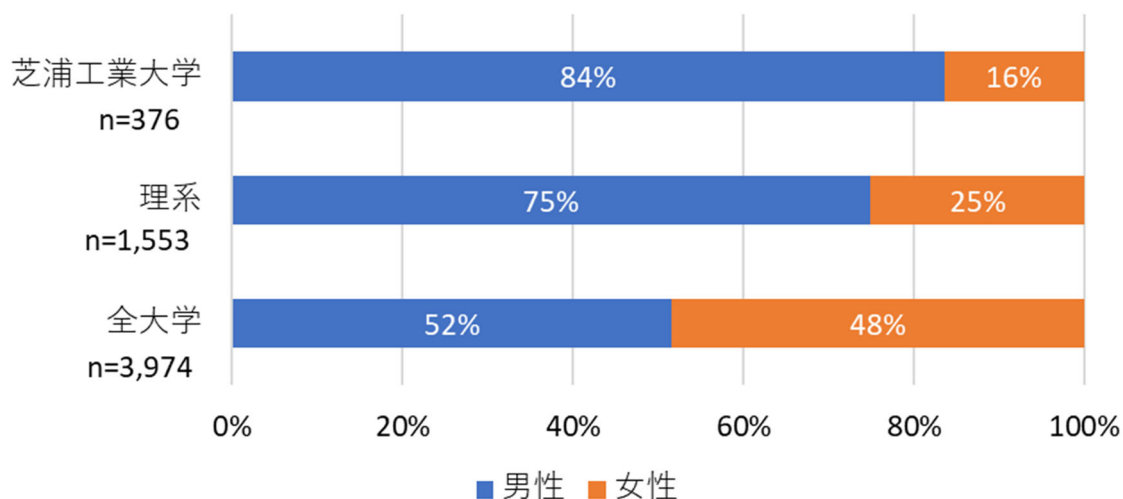
表1-1 大学卒業年(F2)

大学卒業年 (F2)	芝浦工業大学		全大学	
	人数	%	人数	%
5年 (2016卒)	161	42.6%	1,570	35.8%
10年 (2011卒)	116	30.7%	781	17.8%
15年 (2006卒)	101	26.7%	683	15.6%
その他 (上記以外の卒業年、または空欄)	0	0.0%	1,357	30.9%
合計	378	100.0%	4,391	100.0%

(2) 回答者の性別

女性の割合は、芝浦工業大学 16%、理系 25%、全大学 48%です(図 1-2)。

図 1 - 2 性別(F3)



(3) 芝浦工業大学の学部・学科

芝浦工業大学の学部構成は、工学部 71%、システム理工学部 27%、デザイン工学部 2%です（丸めのため合計は 100%にならない）。また、学科構成は、多い学科で 30 人程度(10%弱)です。

表1-3-1 芝浦工業大学の学部

学部	人数	有効 パーセント
工学部	269	71.2
システム理工学部	102	27.0
デザイン工学部	7	1.9
合計	378	100.0

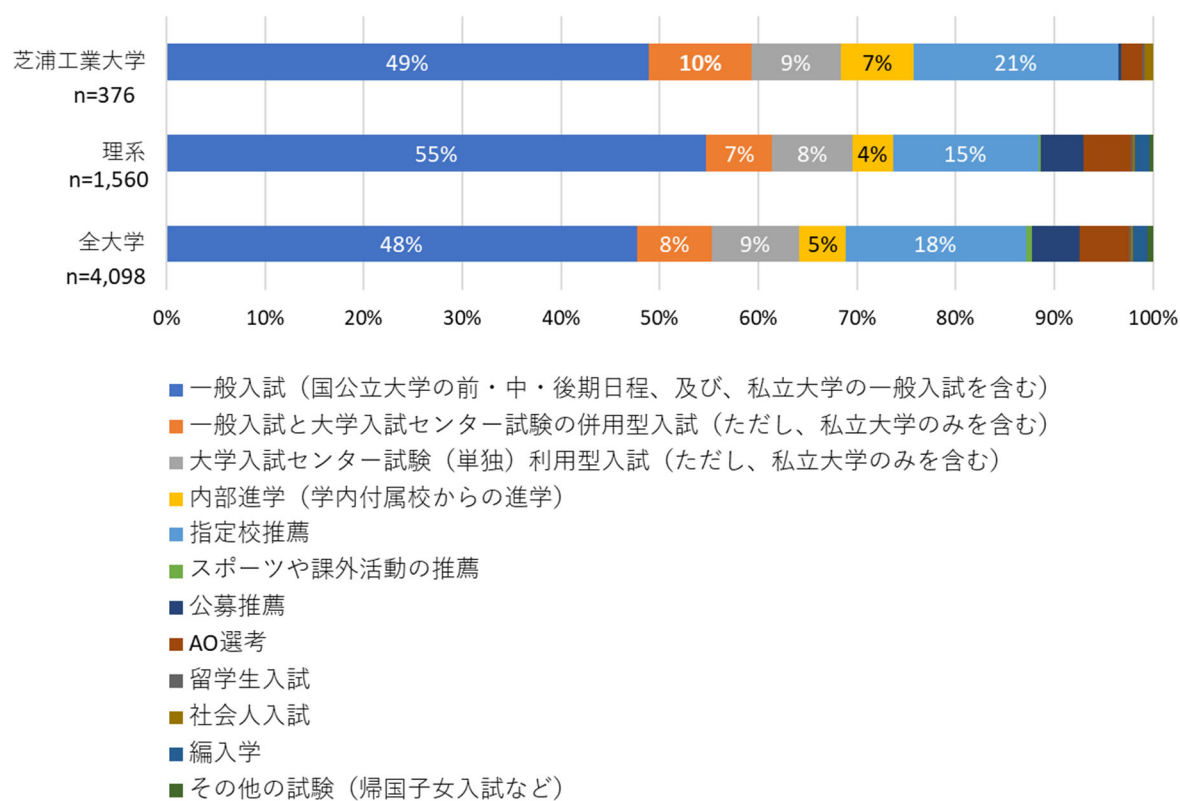
表1-3-2 芝浦工業大学の学科

学科	人数	有効 パーセント
A:機械工学科	25	6.6
B:機械機能工学科	11	2.9
B:機械工学第二学科	11	2.9
C:材料工学科	29	7.7
D:応用化学科	19	5.0
E:電気工学科	28	7.4
F:通信工学科	27	7.1
G:電子工学科	19	5.0
H:土木工学科	17	4.5
J:建築学科	26	6.9
K:建築工学科	32	8.5
L:情報工学科	16	4.2
N:生命科学科	10	2.6
P:電子情報システム学科	34	9.0
Q:機械制御システム学科	25	6.6
R:環境システム学科	25	6.6
S:機械工学科（二部）	3	0.8
T:電気工学科（二部）	4	1.1
V:数理科学科	8	2.1
W:電気設備学科（二部）	2	0.5
Y:デザイン工学科	7	1.9
合計	378	100.0

(4) 入学試験の形態

入学試験の形態は一般入試が多いです(芝浦 49%)。本学は、一般入試と大学入試センター試験の併用型(10%)と内部進学(学内付属校からの進学)(7%)、指定校推薦(21%)が多いです(図 1-4)。

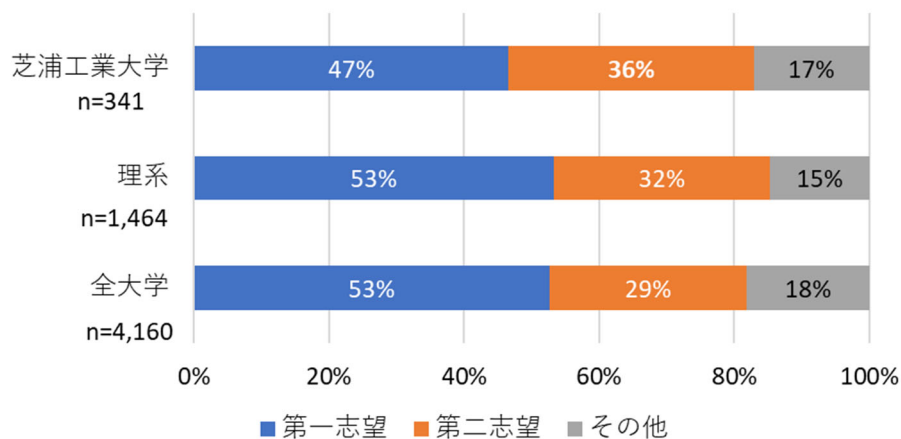
図 1-4 入学試験の形態 (Q1)



(5) 志望順位

本学は第二志望(36%)が多いです(図 1-5)。

図 1-5 志望順位(Q2)



(6) 高校卒業時と現在の居住地

本学の高校卒業時と現在の居住地は関東が8割近くを占めます(表1-6, 図1-6)。

表1-6 高校卒業時と現在の居住地(F4A/F4B)

		北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄	海外	合計
高校卒業時の居住地 (F4A)	芝浦工業大学	5	13	290	43	4	6	4	9	1	375
		1.3%	3.5%	77.3%	11.5%	1.1%	1.6%	1.1%	2.4%	0.3%	100.0%
	理系	85	156	491	268	221	33	14	260	2	1,530
		5.6%	10.2%	32.1%	17.5%	14.4%	2.2%	0.9%	17.0%	0.1%	100.0%
	全大学	194	254	1,671	428	695	99	360	352	9	4,062
		4.8%	6.3%	41.1%	10.5%	17.1%	2.4%	8.9%	8.7%	0.2%	100.0%
現在の居住地 (F4B)	芝浦工業大学	6	294	33	20	7	2	3	5		370
		0.0%	1.6%	79.5%	8.9%	5.4%	1.9%	0.5%	0.8%	1.4%	100.0%
	理系	70	125	629	222	232	36	8	225	6	1,553
		4.5%	8.0%	40.5%	14.3%	14.9%	2.3%	0.5%	14.5%	0.4%	100.0%
	全大学	171	176	1,953	358	862	115	309	314	18	4,276
		4.0%	4.1%	45.7%	8.4%	20.2%	2.7%	7.2%	7.3%	0.4%	100.0%

図1-6-1 高校卒業時の居住地(F4A)

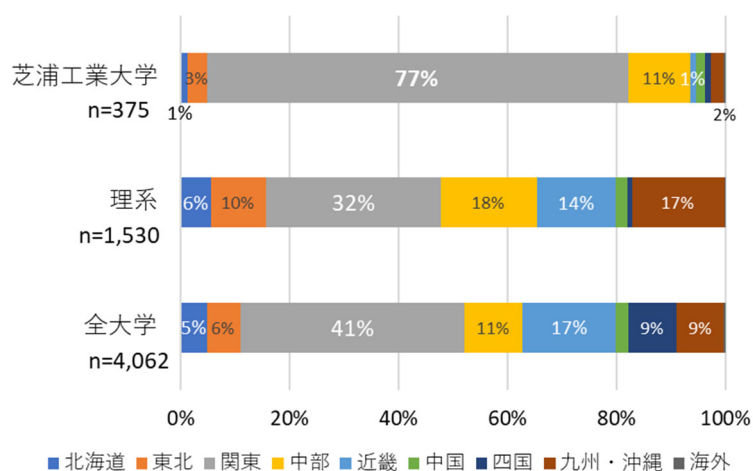
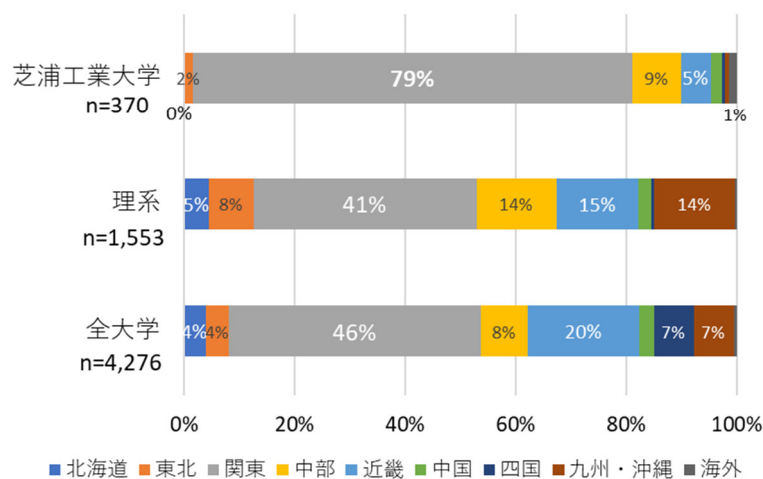


図1-6-2 現在の居住地(F4B)



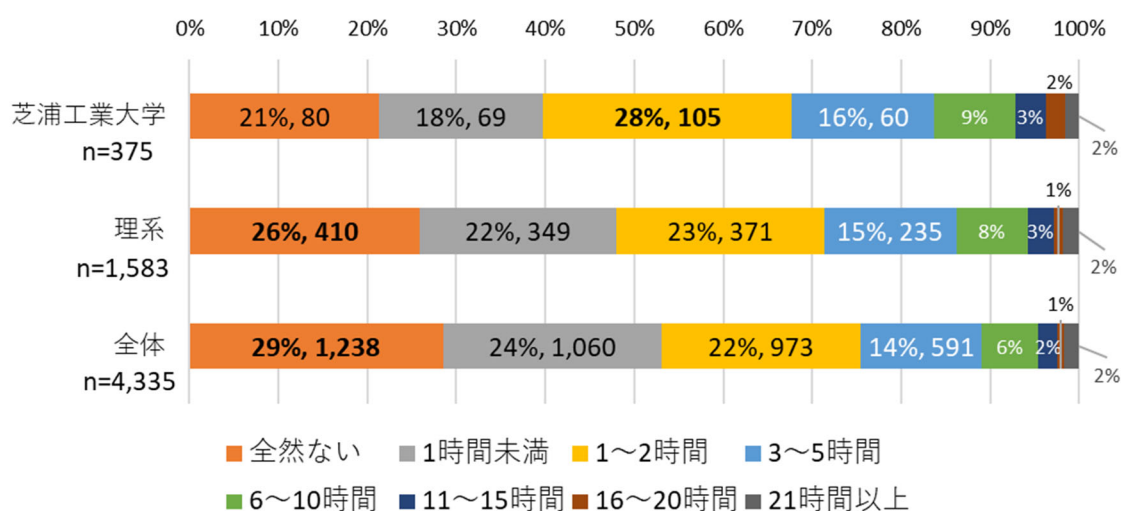
(7) 勤務時間外の学習時間（一週間あたり）

一週間あたりの学習時間は、最頻値をみると、本学は1～2時間(28%)、理系と全大学は全然ない(26%：29%)です。勤務時間外の学習時間は、本学の卒業生が若干多いようです（表 1-7, 図 1-7）。

表 1 - 7 勤務時間外の学習時間(F5)

	芝浦工業大学		理系		全体	
F5. 勤務時間外の学習時間（一週間あたり）	人数	%	人数	%	人数	%
全然ない	80	21%	410	26%	1,238	29%
1時間未満	69	18%	349	22%	1,060	24%
1～2時間	105	28%	371	23%	973	22%
3～5時間	60	16%	235	15%	591	14%
6～10時間	34	9%	126	8%	274	6%
11～15時間	13	3%	47	3%	95	2%
16～20時間	8	2%	17	1%	31	1%
21時間以上	6	2%	28	2%	73	2%
総合計	375	100%	1,583	100.0%	4,335	100.0%

図 1 - 7 勤務時間外の学習時間(F5)



2. 授業や課外活動等への取り組み

卒業生調査では、授業や課外活動等への取り組みの熱心さを10項目についてたずねています（図2-1～図2-10）。全大学と理系と比べた本学の特徴は、以下のようです。

図2-1 全学教育(一般教育科目)は「やや熱心」47%が多い。

図2-2 外国語科目は「やや不熱心」24%が多く、「熱心」「やや熱心」は少ない。

図2-3 専門科目(実験除く)は「熱心」39%が多い。

図2-4 専門科目(実験)は「熱心」45%が多い。

図2-5 ゼミや実習は「熱心」45%が多い。

図2-6 卒業論文・卒業研究は「熱心」50%が多い。

図2-7 部・サークル活動は「やや不熱心」15%が多い。

図2-8 資格の取得は「やや不熱心」20%が多い。

図2-9 アルバイトは「やや熱心」36%が多い。

図2-10 ボランティアは「不熱心」13%、「やや不熱心」22%が多い。

図2-1 全学教育（一般教育科目）(Q3A)

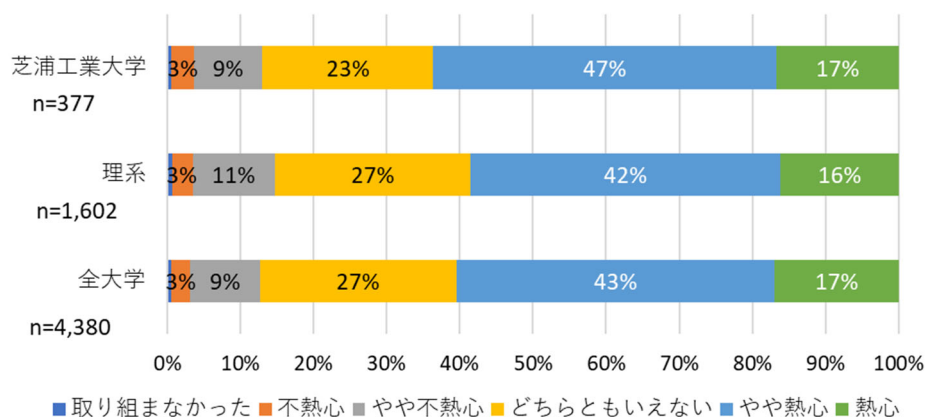


図2-2 外国語科目(Q3B)

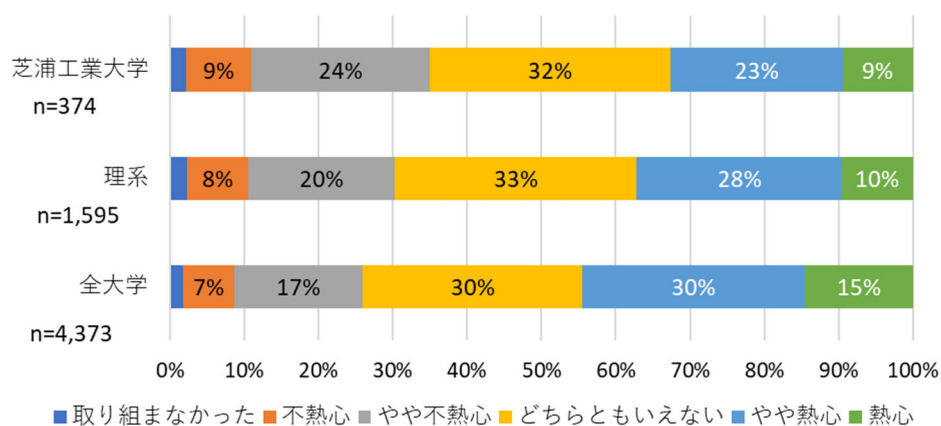


図 2 - 3 専門科目（実験除く）(Q3C)

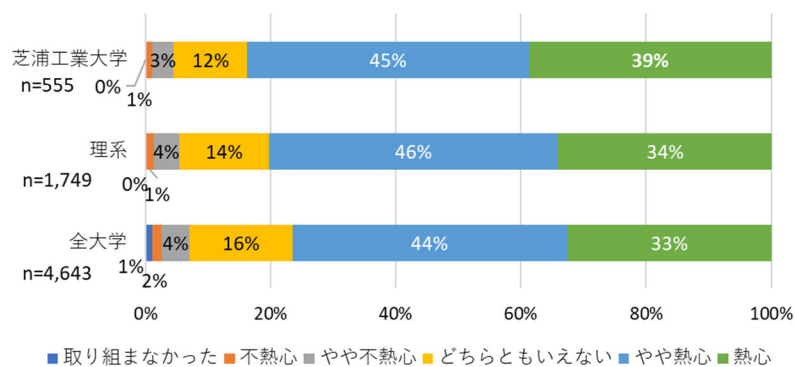


図 2 - 4 専門科目（実験）(Q3D)

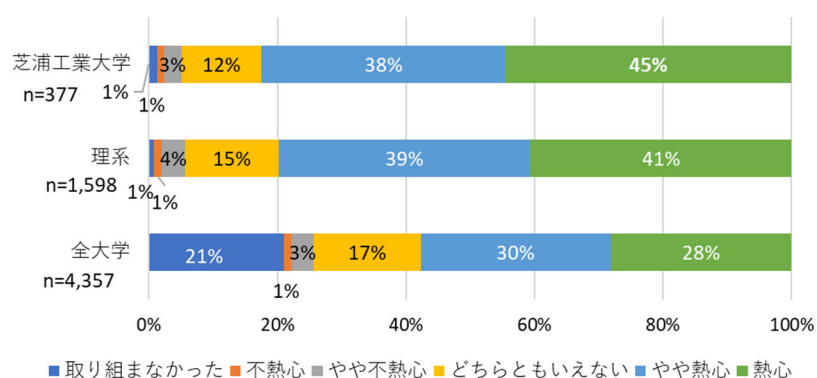


図 2 - 5 ゼミや実習(Q3E)

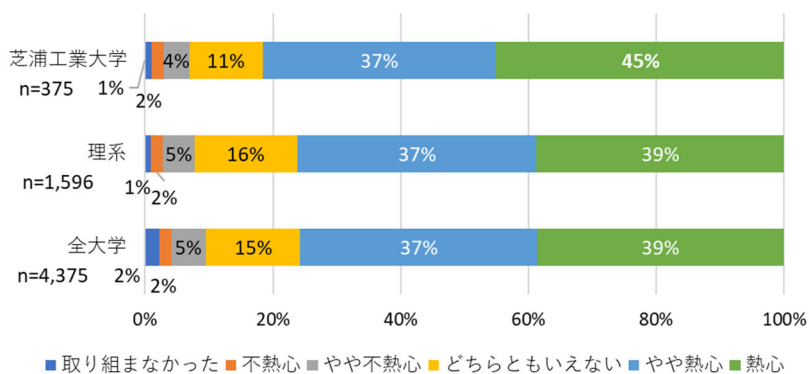


図 2 - 6 卒業論文・卒業研究(Q3F)

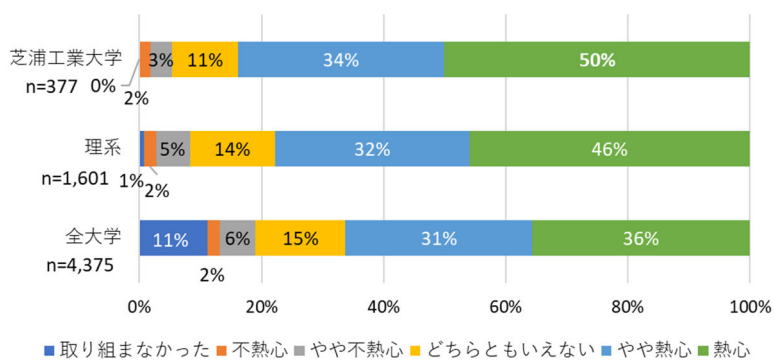


図 2-7 部・サークル活動(Q3G)

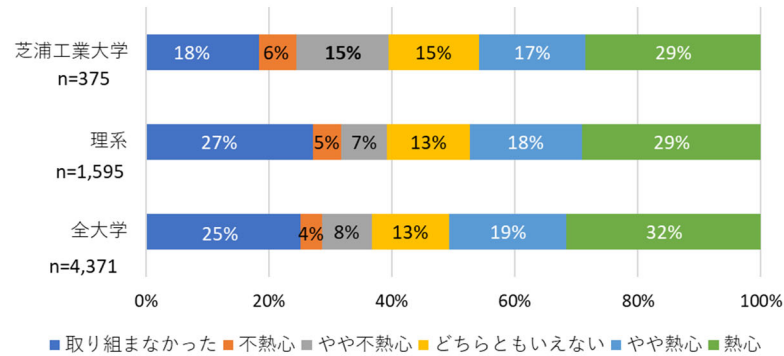


図 2-8 資格の取得(Q3H)

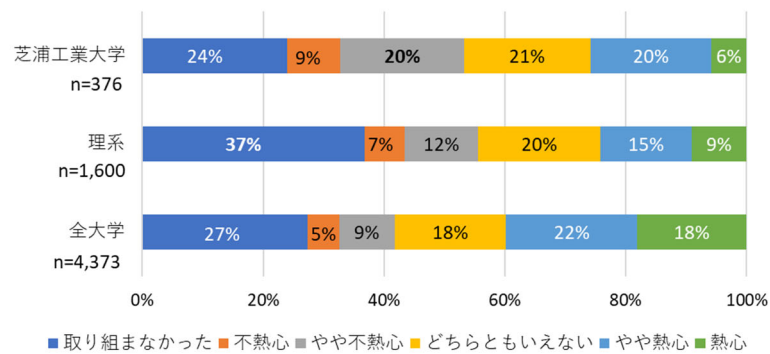


図 2-9 アルバイト(Q3I)

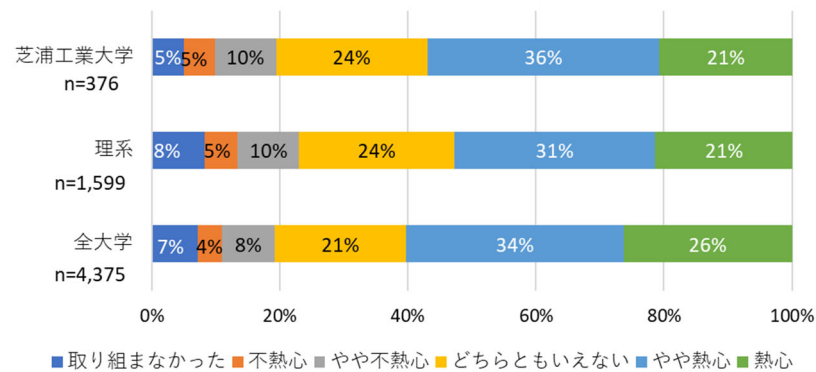
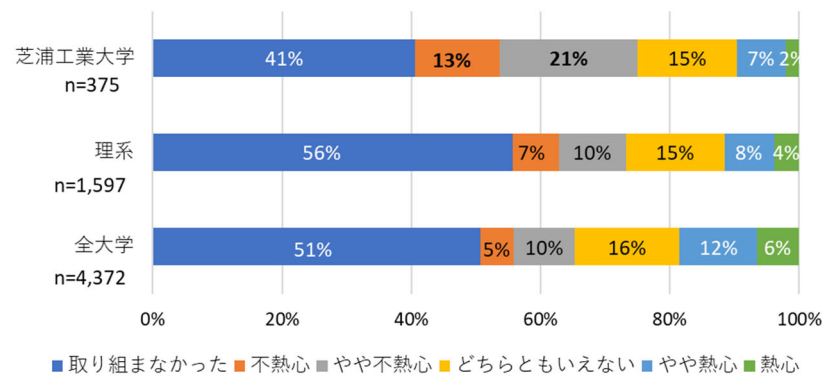


図 2-10 ボランティア(Q3J)



3. 能力の変化

卒業生調査では、在学中の能力の変化を 20 項目についてたずねています（表 3-1、図 3-1）。選択肢は、「大きく増えた」「増えた」「変化なし」「減った」「大きく減った」の 5 段階です。表 3-1 は、平均点を算出し、芝浦工業大学の点数の高い順に並べ替えました。

本学の特徴は、第一に、「コンピュータの操作能力」「分析力や問題解決能力」「プレゼンテーションの能力」「他の人と協力して物事を遂行する能力」「数理的な能力」の点数が高いです（Q,B,O,H,P）。

第二に、比較的点数が低い項目は、「一般的な教養」「人間関係を構築する能力」「コミュニケーションの能力」です（A,G,N）。

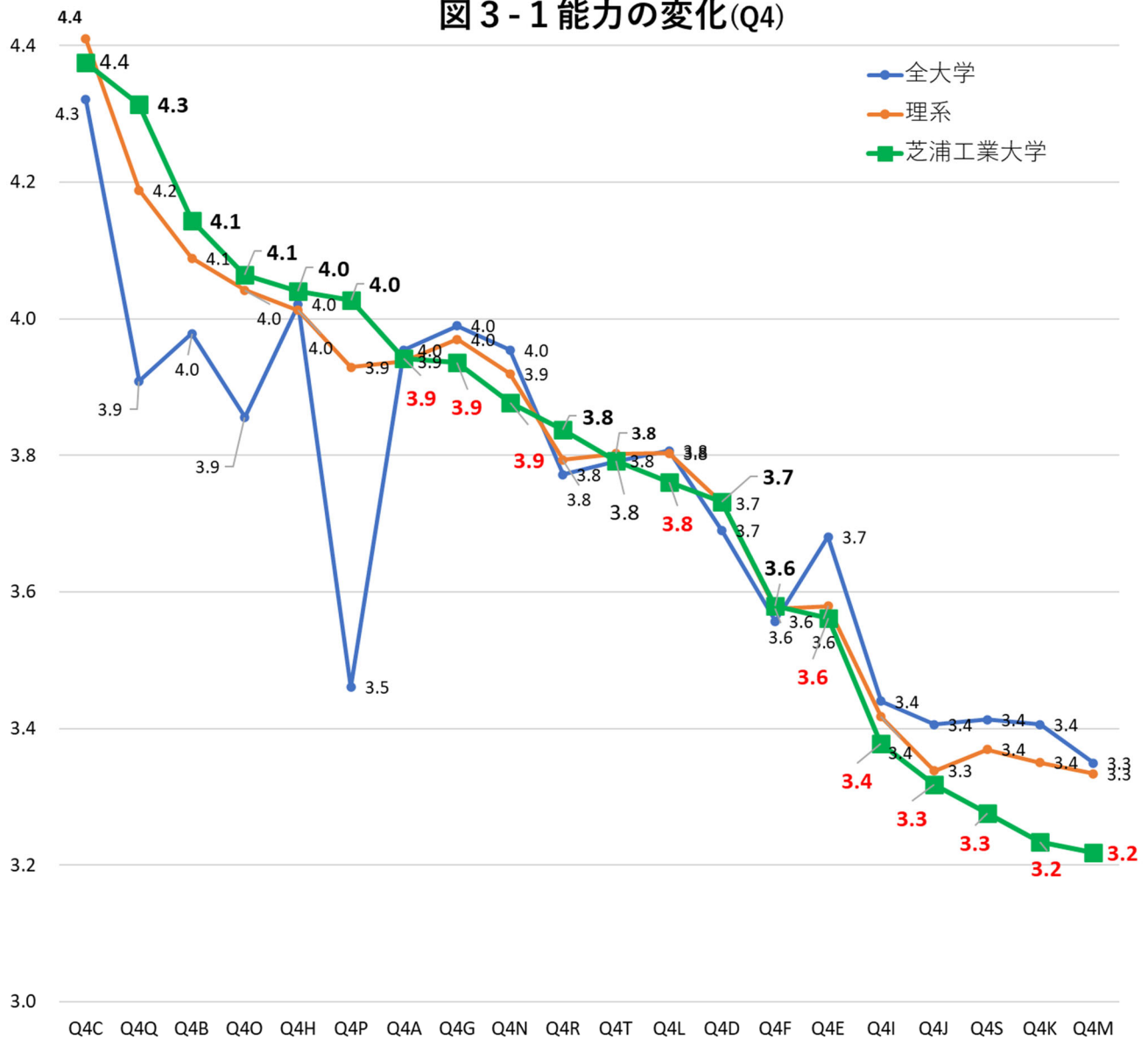
そして第三に、点数が低い項目は、「異文化の人々に関する知識」「異文化の人々と協力する能力」「地域が直面する問題を理解する能力」「グローバルな問題の理解」「国民が直面する問題を理解する能力」「外国語の運用能力」です（E,I,J,S,K,M）。

表3-1 能力の変化(Q4)

質問 番号	項目名	全大学	理系	芝浦工業 大学
Q4C	C. 専門分野や学科の知識	4.3	4.4	4.4
Q4Q	Q. コンピュータの操作能力	3.9	4.2	4.3
Q4B	B. 分析力や問題解決能力	4.0	4.1	4.1
Q4O	O. プレゼンテーションの能力	3.9	4.0	4.1
Q4H	H. 他の人と協力して物事を遂行する能力	4.0	4.0	4.0
Q4P	P. 数理的な能力	3.5	3.9	4.0
Q4A	A. 一般的な教養	4.0	3.9	3.9
Q4G	G. 人間関係を構築する能力	4.0	4.0	3.9
Q4N	N. コミュニケーションの能力	4.0	3.9	3.9
Q4R	R. 時間を効果的に利用する能力	3.8	3.8	3.8
Q4T	T. 就職に向けた情報収集能力	3.8	3.8	3.8
Q4L	L. 文章表現の能力	3.8	3.8	3.8
Q4D	D. 批判的に考える能力	3.7	3.7	3.7
Q4F	F. リーダーシップの能力	3.6	3.6	3.6
Q4E	E. 異文化の人々に関する知識	3.7	3.6	3.6
Q4I	I. 異文化の人々と協力する能力	3.4	3.4	3.4
Q4J	J. 地域社会が直面する問題を理解する能力	3.4	3.3	3.3
Q4S	S. グローバルな問題の理解	3.4	3.4	3.3
Q4K	K. 国民が直面する問題を理解する能力	3.4	3.4	3.2
Q4M	M. 外国語の運用能力	3.3	3.3	3.2

* 大きく増えた5点、増えた4点、変化なし3点、減った2点、大きく減った1点の平均点
芝浦工業大学の点数で項目を並び替え、グループ内最高点は太字、最低点は赤字

図 3 - 1 能力の変化(Q4)



ちなみに、卒業後5年の卒業生について、「G.人間関係を構築する能力」、「I.異文化の人々と協力する能力」、そして「M.外国語の運用能力」の能力伸張の自己評価を、以下に図示しました(図 3-1-1～図 3-1-3)。図から、本学の卒業生は「大きく増えた」「増えた」が理系や全大学と比べ多いことがわかります。「人間関係を構築する能力」の評価はむしろ高いです。しかし、「異文化の人々と協力する能力」と「外国語の運用能力」の評価は、理系や全大学と比べて「減った」も多いです。「大きく増えた」「増えた」の評価を増やすだけでなく、「減った」の評価を減らすことが求められるでしょう。

図 3-1-1 人間関係を構築する能力

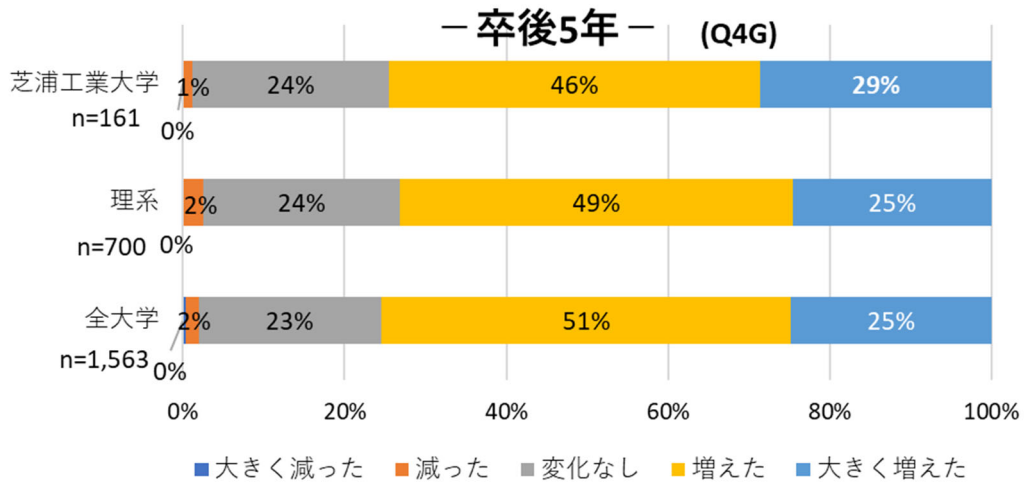


図 3-1-2 異文化の人々と協力する能力

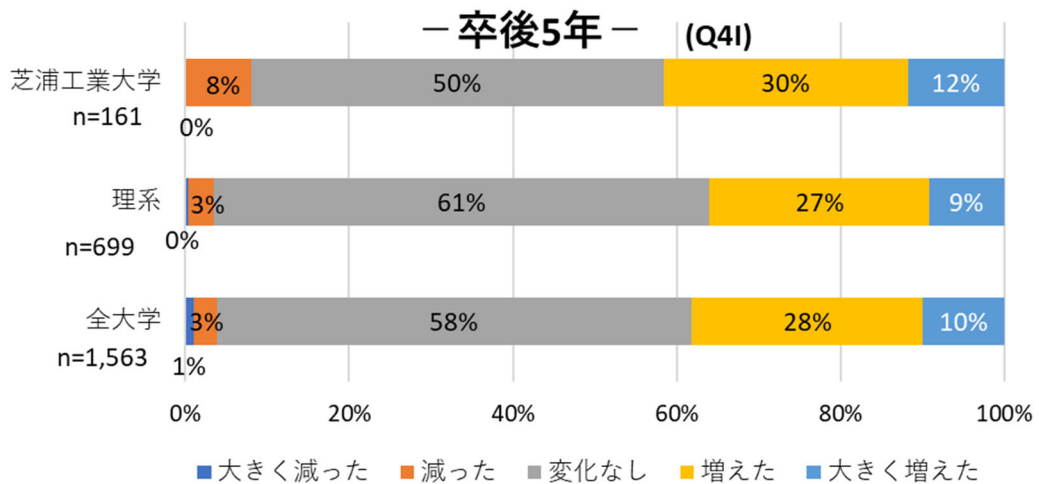
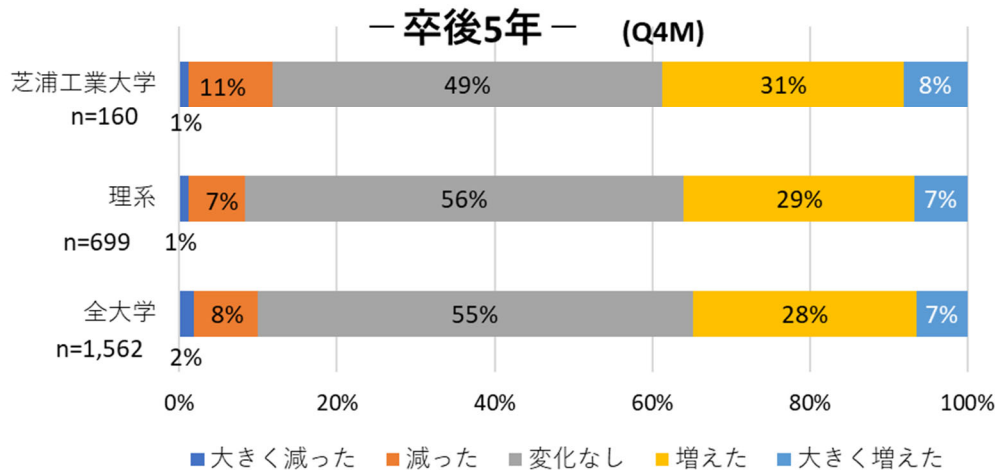


図 3-1-3 外国語の運用能力



4. 大学時代の留学経験

大学時代の留学経験は、いずれも「渡航したことはない」が最も多いです(図 4-1。卒業後5年に限ってみると、本学の「渡航したことはない」の割合は71%で、10ポイント少なくなります。一方、全大学の「渡航したことはない」の割合は82%で変化ありません(図 4-2)。本学は留学経験が増加する傾向にあります。

図 4 - 1 大学時代の留学経験(Q5)

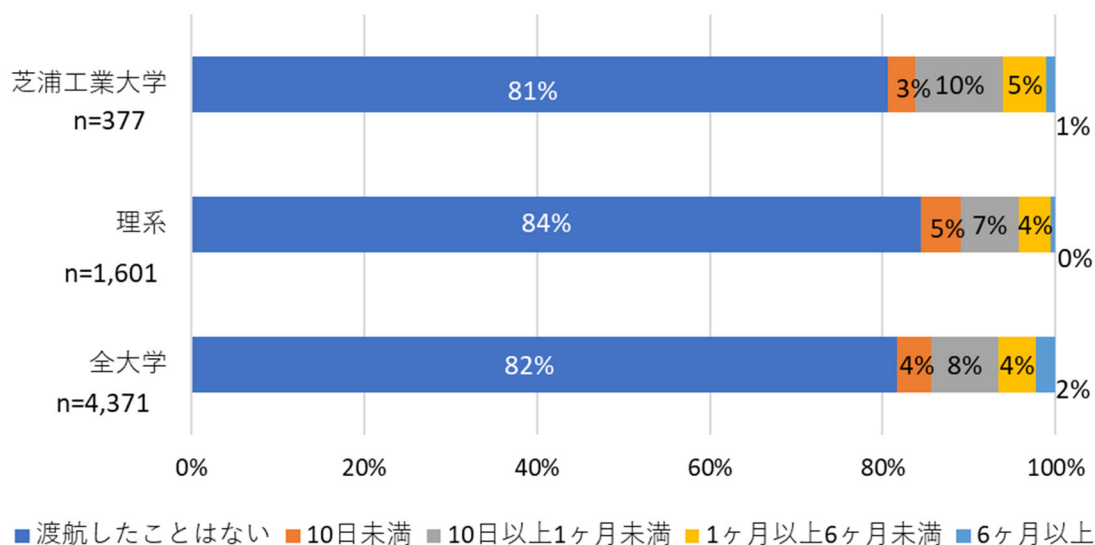
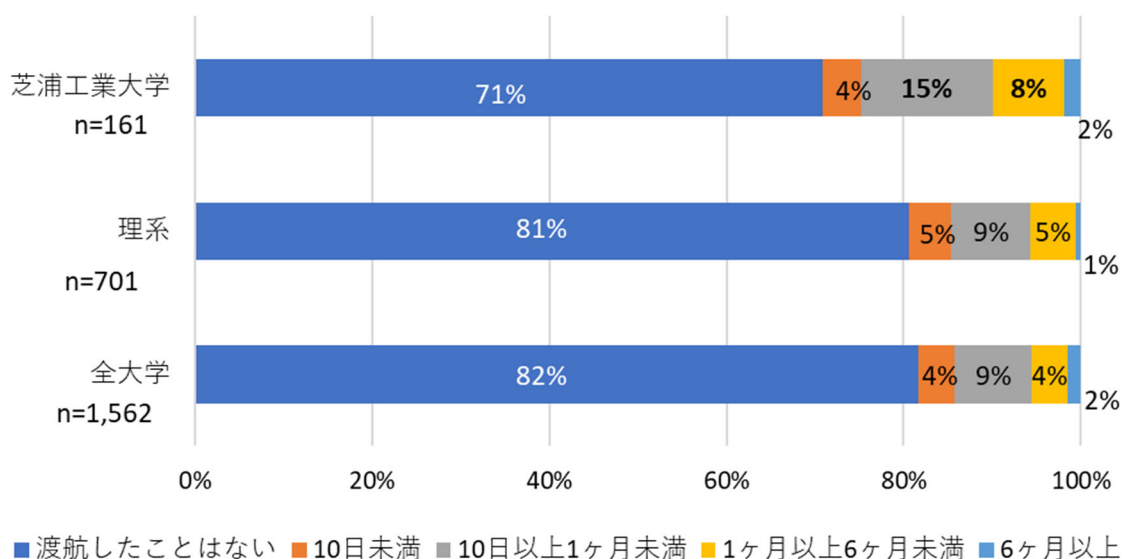


図 4 - 2 大学時代の留学経験－卒業後5年－(Q5)

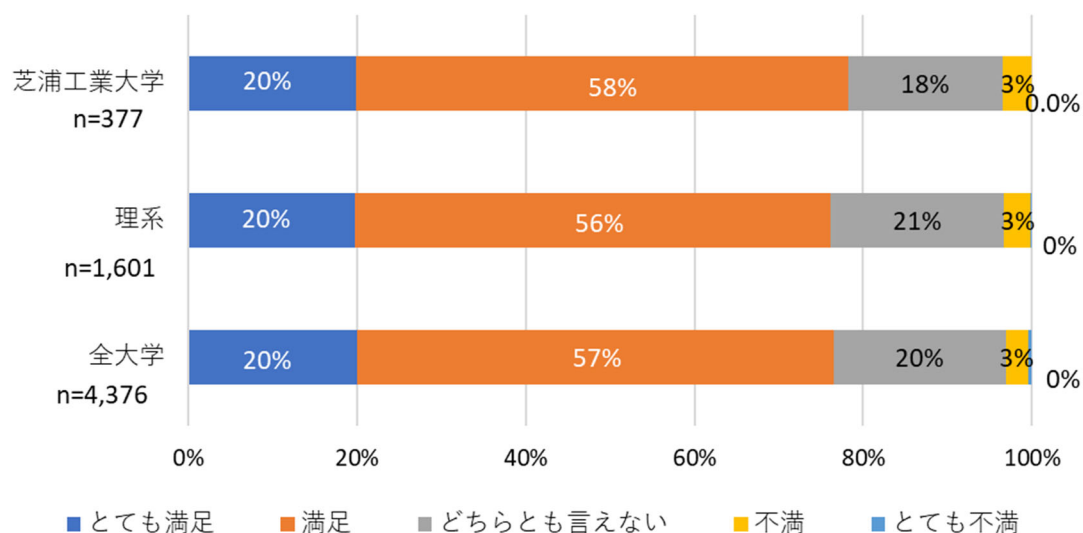


5. 満足度

(1) 教育・研究に対する満足度

教育・研究への満足度は、本学、理系、全大学とも「とても満足」と「満足」の合計で4分の3を占めます（図 5-1）。

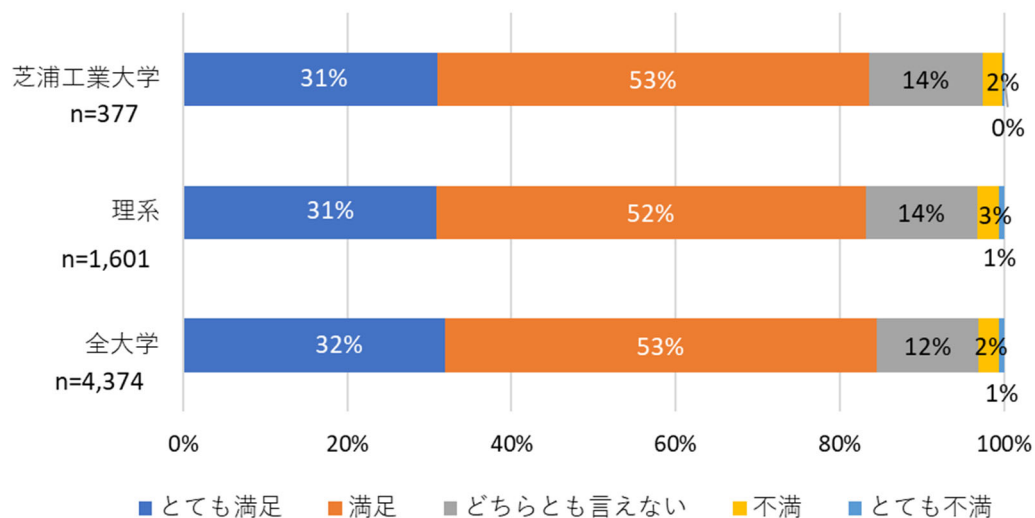
図 5 - 1 教育・研究への満足度(q6)



(2) 大学時代の生活全般への満足度

大学時代の生活全般への満足度は、本学、理系、全大学とも「とても満足」と「満足」の合計で8割以上を占めます（図 5-2）。

図 5 - 2 生活全般への満足度(q7)



6. 大学とのつながり

本学の卒業生は78%が「つながりがある」と答えています。全大学や理系より若干多いです(図 6-1)。調査では12項目の「つながり」をたずねています(図 6-2～図 6-13)。

主な「つながり」は同窓との付き合いで48%です(図 6-10)。次に、ゼミや研究室の集まり(図 6-4)やクラブ・サークルの集まりに(図 6-5)、恩師との付き合い(図 6-11)です。ホームページやSNSは14%が閲覧しています(図 6-5)。

また、同窓会やホームカミングデー等の諸行事(図 6-2)や企業内、職域等での同窓の集まり(図 6-3)、仕事上のつながり(図 6-12)は7%、大学に寄付をしたことがある(図 6-7)、親戚に大学関係者がいる(図 6-8)、公開講座や図書館などを利用している(図 6-9)は、いずれも5%未満です。

図 6-1 つながりはない(Q8-13)

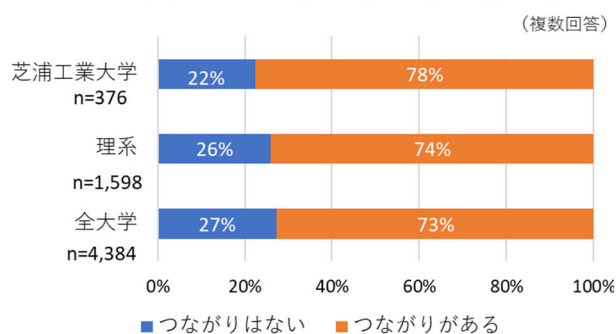


図 6-4 ゼミや研究室の集まりに参加(Q8-3)

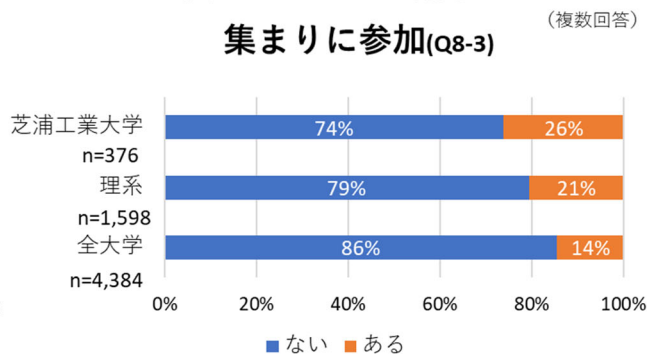


図 6-2 同窓会・ホームカミングデーや大学開催の諸行事への参加(Q8-1)

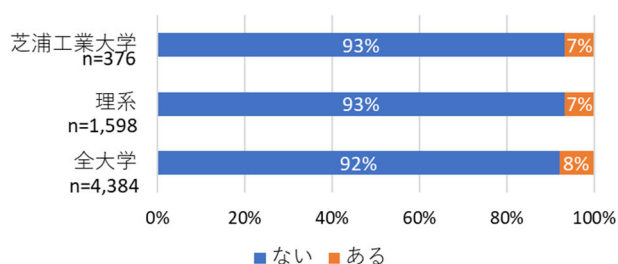


図 6-5 クラブ・サークルの集まりに参加(Q8-4)

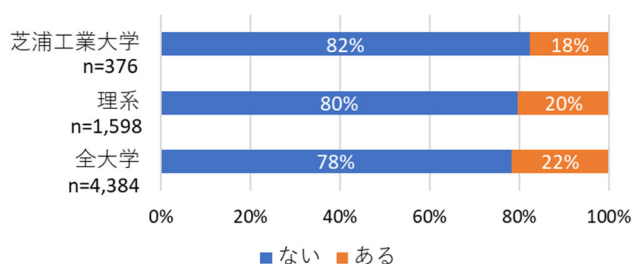


図 6-3 企業内、職域などの同窓の集まりに参加(Q8-2)

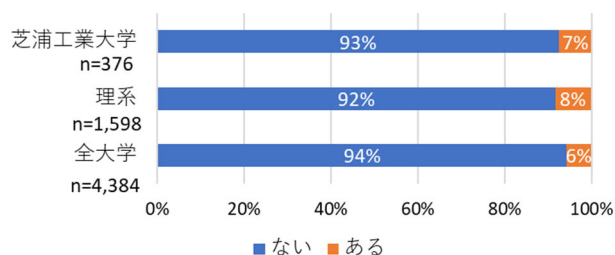


図 6-6 ホームページやSNSの閲覧をしている(Q8-5)

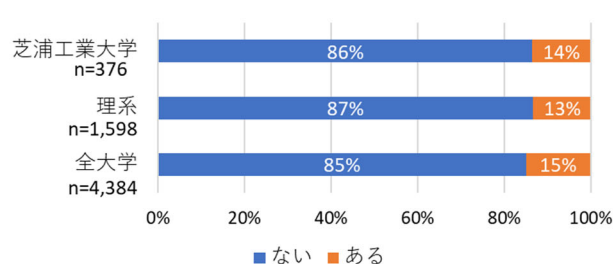


図 6-7 大学に寄付をした
ことがある(Q8-6) (複数回答)

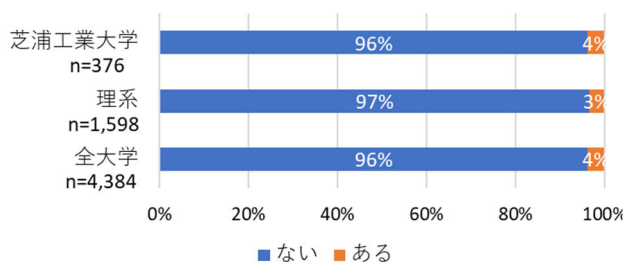


図 6-11 恩師との付き合いを
保っている(Q8_10) (複数回答)

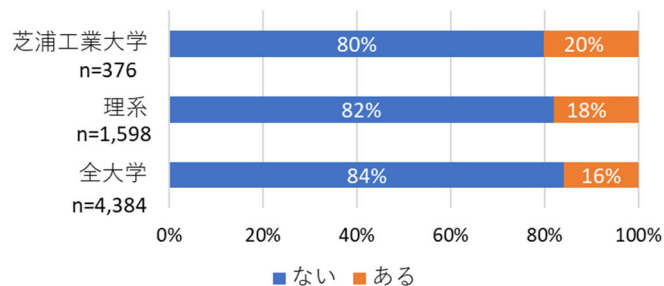


図 6-8 親戚に大学関係者
(学生・教職員) がいる(Q8_7) (複数回答)

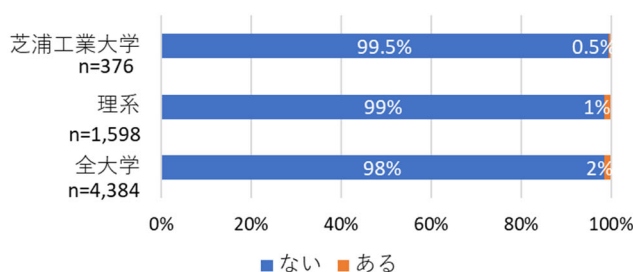


図 6-12 仕事上のつながりがある
(Q8_11) (複数回答)

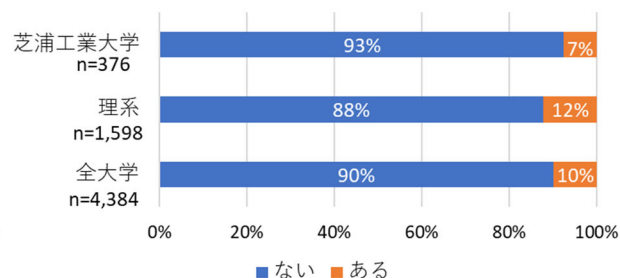


図 6-9 公開講座や図書館などを
利用している(Q8_8) (複数回答)

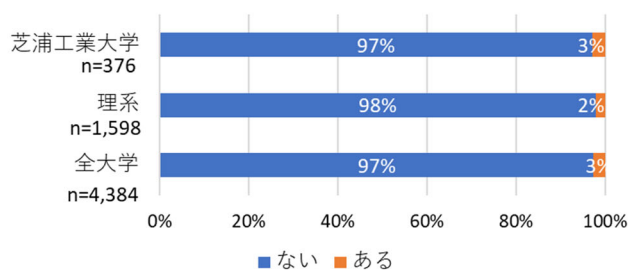


図 6-13 その他(Q8_12) (複数回答)

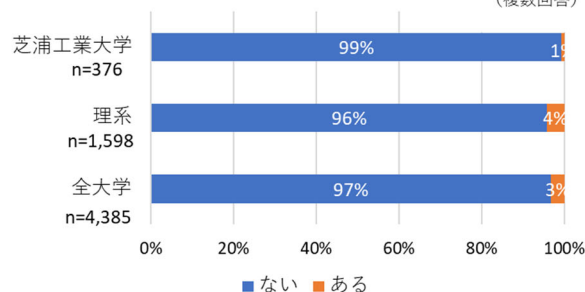
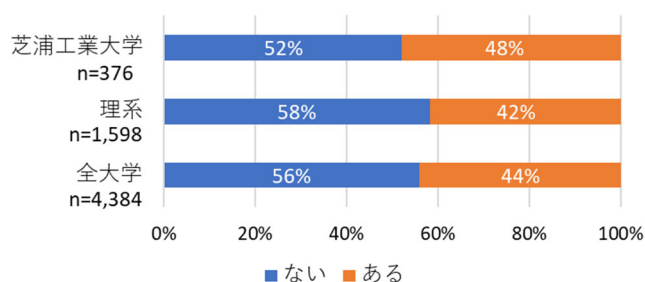


図 6-10 同窓との付き合いを
保っている(Q8_9) (複数回答)

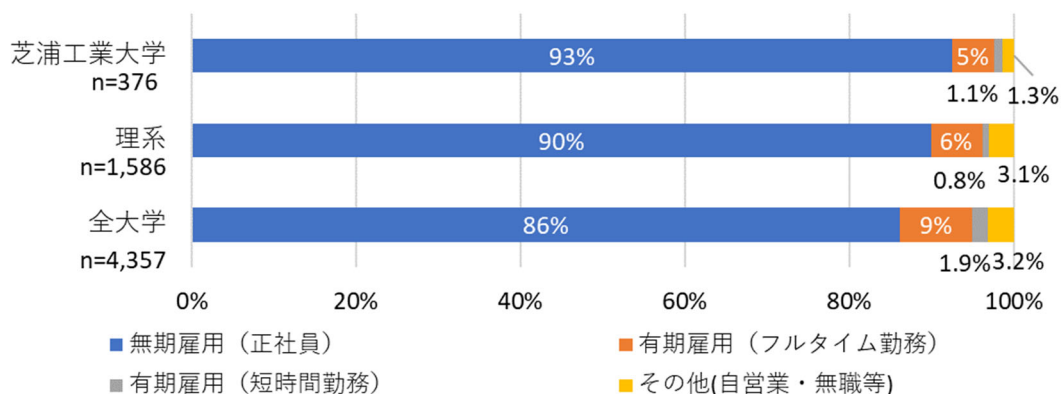


7. 初職

(1) 初職の就業形態

本学の卒業生は 93%が無期雇用(正社員)で就職しています。全大学より 7 ポイント、理系より 3 ポイント多いです(図 7-1)。

図 7-1 初職の就業形態(Q9_1)



(2) 初職の業種

卒業生の初職の主な業種は、製造業(39%)、建設業(19%)、情報通信業(17%)等です。製造業は、全大学より 21 ポイント、理系より 8 ポイント多いです。建設業は、全大学より 12 ポイント、理系より 5 ポイント多いです。そして、情報通信産業は、全大学より 7 ポイント、理系より 2 ポイント多いです(次ページ、図 7-2)。

(3) 初職の志望

初職の志望は、「第 1 志望」37%、「ほぼ志望どおり」42%で、全大学、理系よりも多く、卒業生の 8 割は志望どおりに就職しています(図 7-3)。

図 7-3 初職の志望(Q9_3)

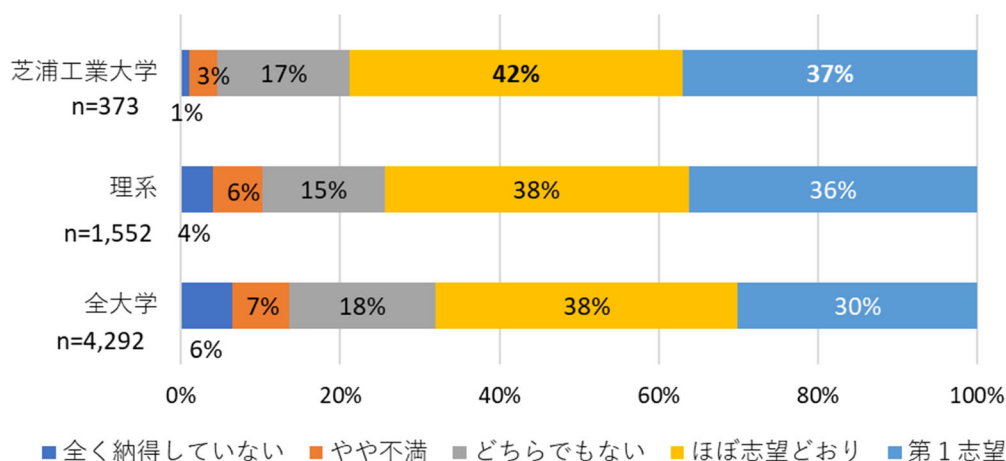
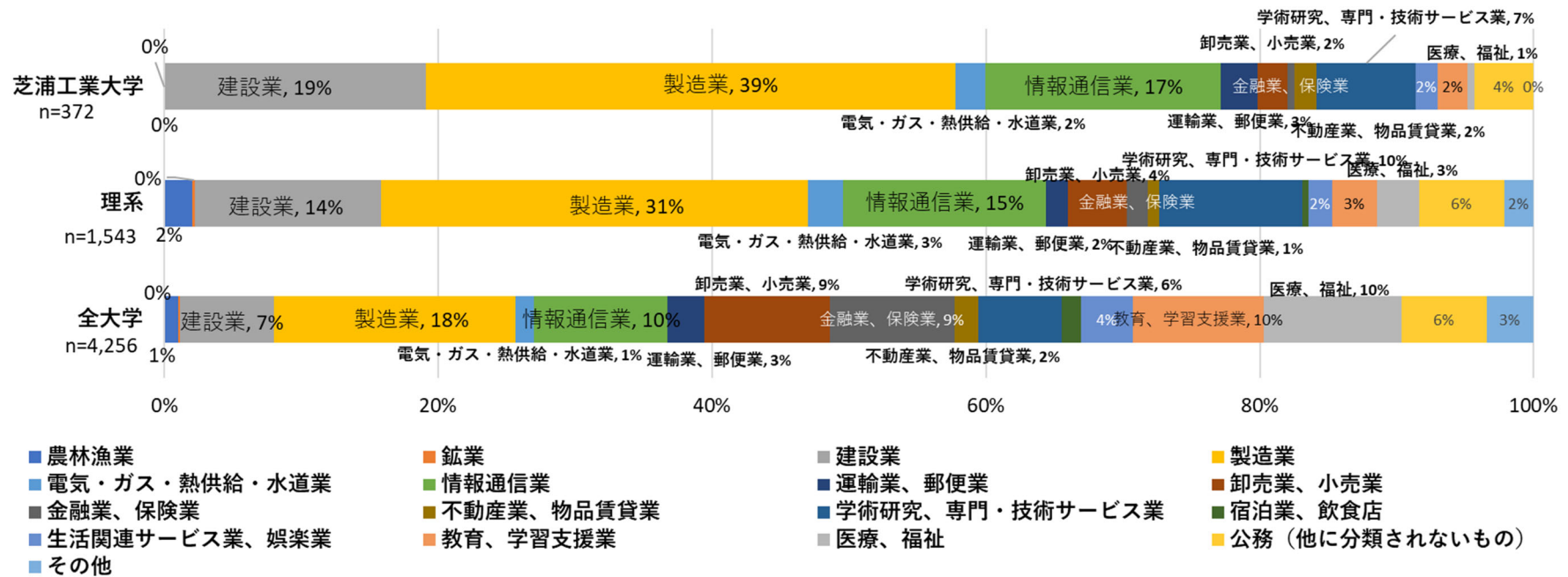


図 7 - 2 初職の就職先の業種(Q9-2)



(4) 初職の選択理由

初職の選択理由で重視されている項目は、職種（3.4）、業種（3.4）、安定性（3.2）、そして勤務地（3.2）です。全大学、理系も同様です。なお、本学は「A. 知名度」の重視度が少し多いようです(図 7-4)。

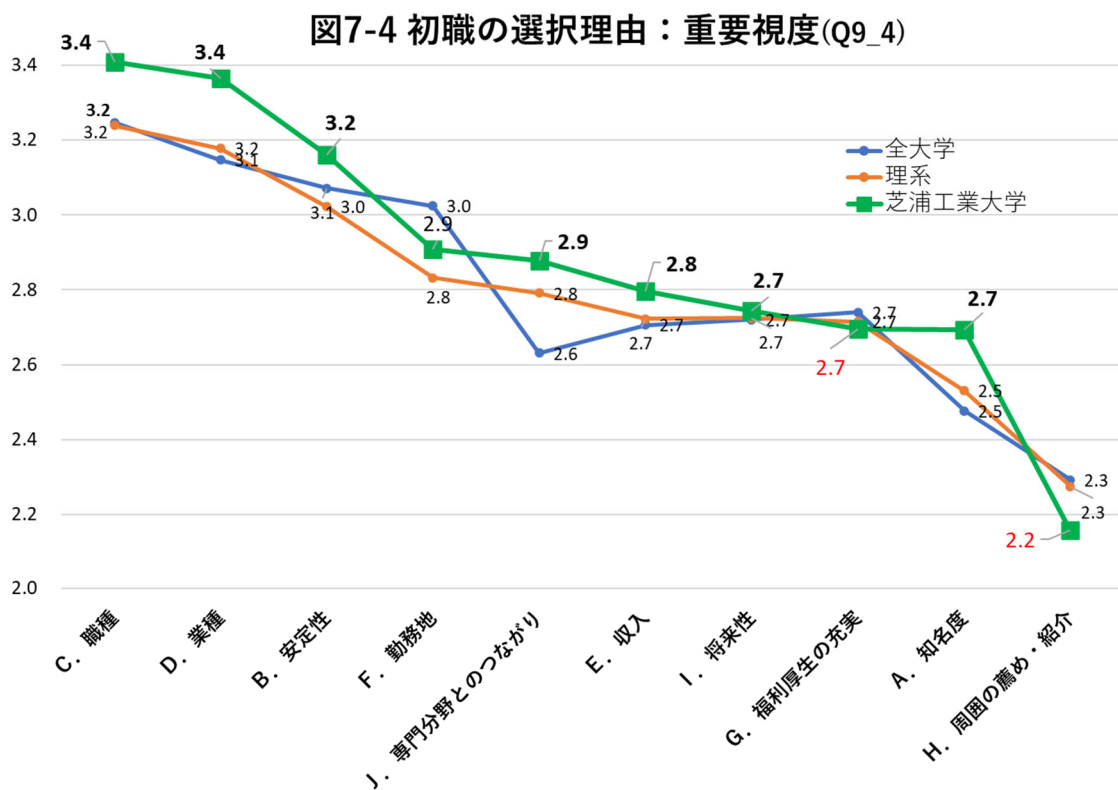
表7-4 初職の選択理由：重要視度(Q9_4)

質問 番号	項目名	全大学	理系	芝浦工業 大学
Q9_4C	C. 職種	3.2	3.2	3.4
Q9_4D	D. 業種	3.1	3.2	3.4
Q9_4B	B. 安定性	3.1	3.0	3.2
Q9_4F	F. 勤務地	3.0	2.8	2.9
Q9_4J	J. 専門分野とのつながり	2.6	2.8	2.9
Q9_4E	E. 収入	2.7	2.7	2.8
Q9_4I	I. 将来性	2.7	2.7	2.7
Q9_4G	G. 福利厚生の充実	2.7	2.7	2.7
Q9_4A	A. 知名度	2.5	2.5	2.7
Q9_4H	H. 周囲の薦め・紹介	2.3	2.3	2.2

* 非常に重視した4点、やや重視した3点、あまり重視しなかった2点、

全く重視しなかった1点の平均点

芝浦工業大学の点数で項目を並び替え、グループ内最高点は太字、最低点は赤字

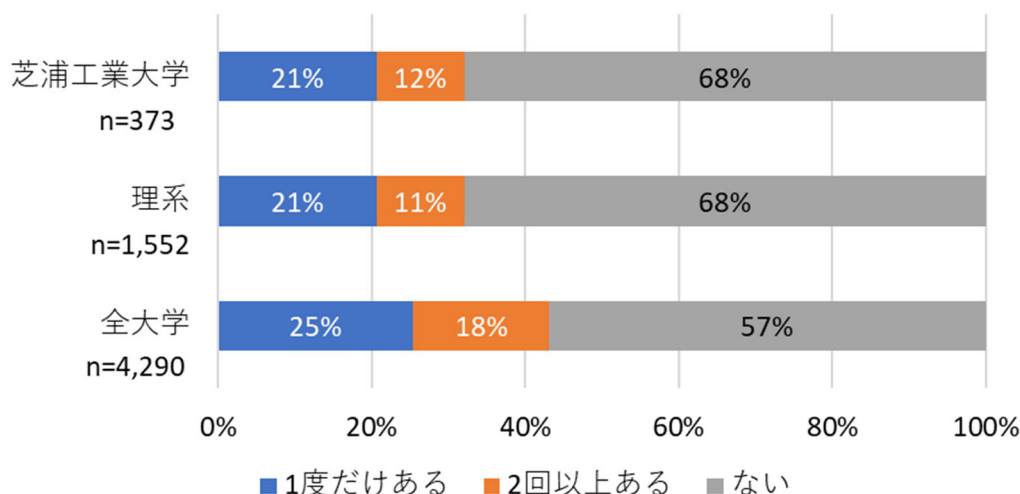


8. 転職・離職の経験

(1) 転職・離職の経験

転職や離職の経験は、本学の卒業生は「1度だけある」21%、「2回以上ある」12%です。理系もほぼ同じです。全大学の転職・離職は若干多いです(図8-1)。

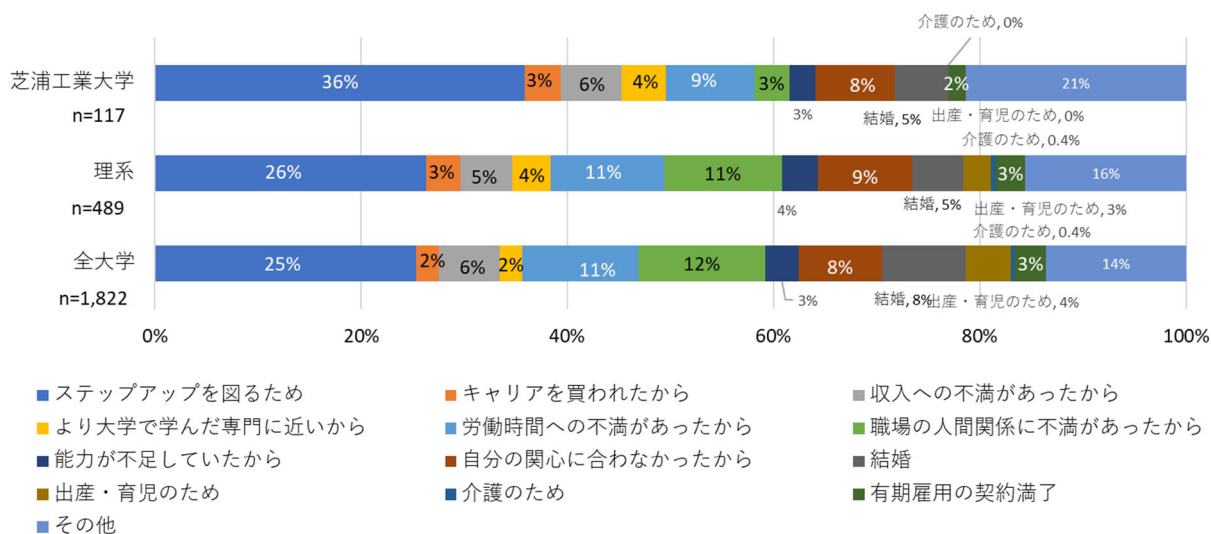
図8-1 転職・離職の経験(Q10_1)



(2) 転職・離職の理由

本学で最も多い理由は「ステップアップを図るため」36%です。次いで、「労働時間への不満があったから」9%、「自分の関心に合わなかったから」8%、「収入への不満があったから」6%です。全大学、理系も同様の傾向ですが、本学は「職場の人間関係に不満があったから」(3%)が少ないです。また、「その他」が21%を占めます。なお、全大学では結婚と出産・育児で転職・離職の理由の12%を占めます(図8-2)。

図8-2 転職・離職の理由(Q10_2)

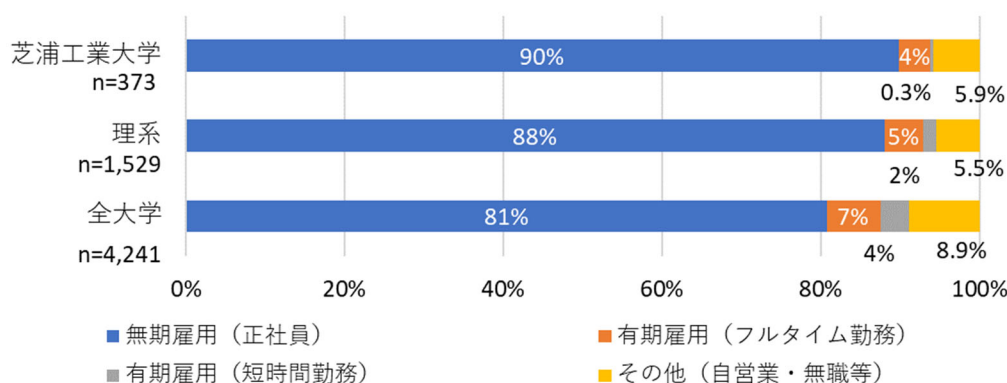


9. 現職

(1) 現職の就業形態

本学は 90%が無期雇用(正社員)です。全大学より 9 ポイント、理系より 2 ポイント多いです(図 9-1)。

図 9 - 1 現職の就業形態(q11_1)



(2) 現職の業種（転職・離職の経験者について）

卒業生の現職の主な業種は、製造業(36%)、建設業(16%)、情報通信業(16%)等です。製造業は、全大学より 18 ポイント、理系より 5 ポイント多いです。建設業は、全大学より 10 ポイント、理系より 4 ポイント多いです。そして、情報通信産業は、全大学より 6 ポイント、理系より 2 ポイント多いです(次ページ、図 9-2)。

(3) 従業員規模

卒業生の現在の勤務先の従業員規模は「5,001 名以上」33%が多いです。全大学より 14 ポイント、理系より 9 ポイント多いです(図 9-3)。

図 9 - 3 現在の勤務先の従業員規模(q11_3)

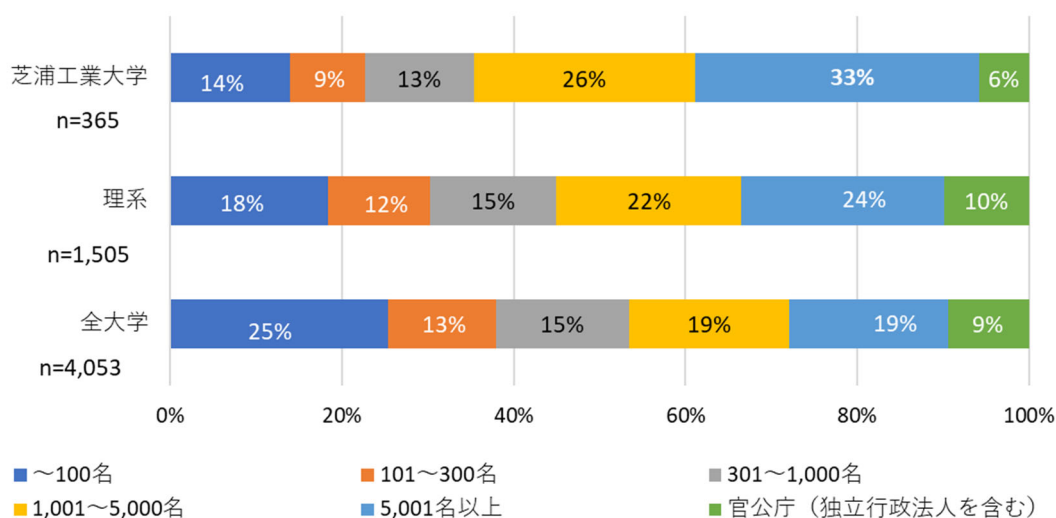
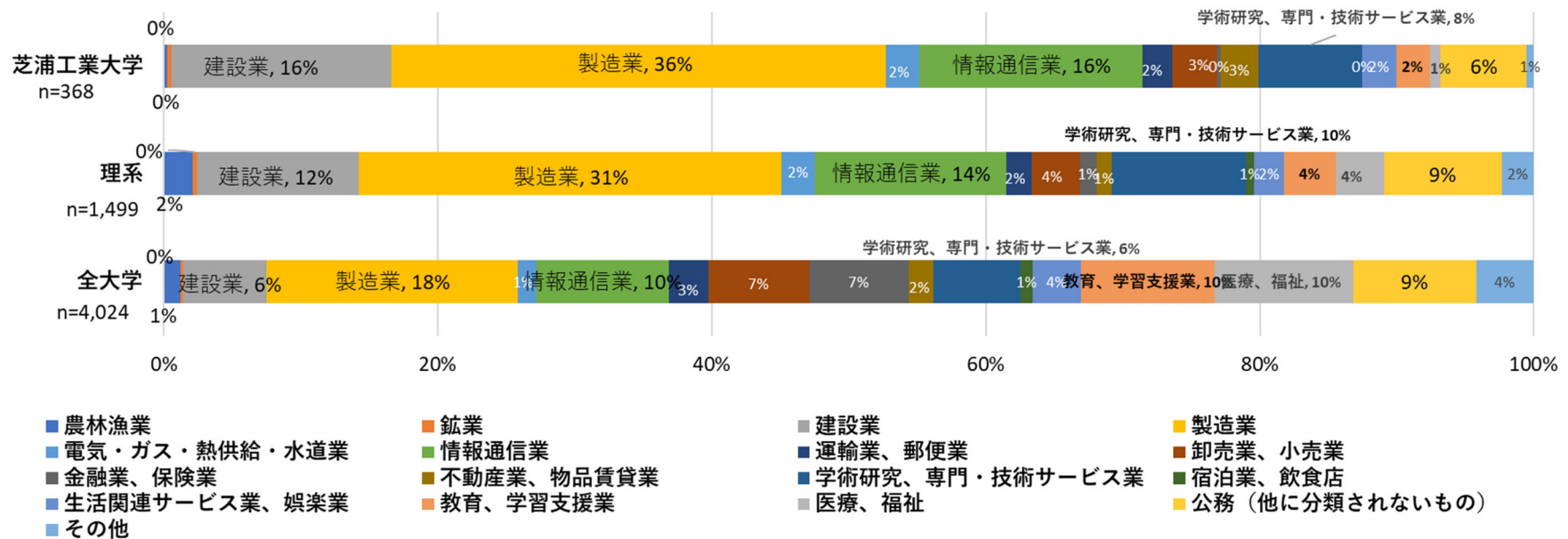


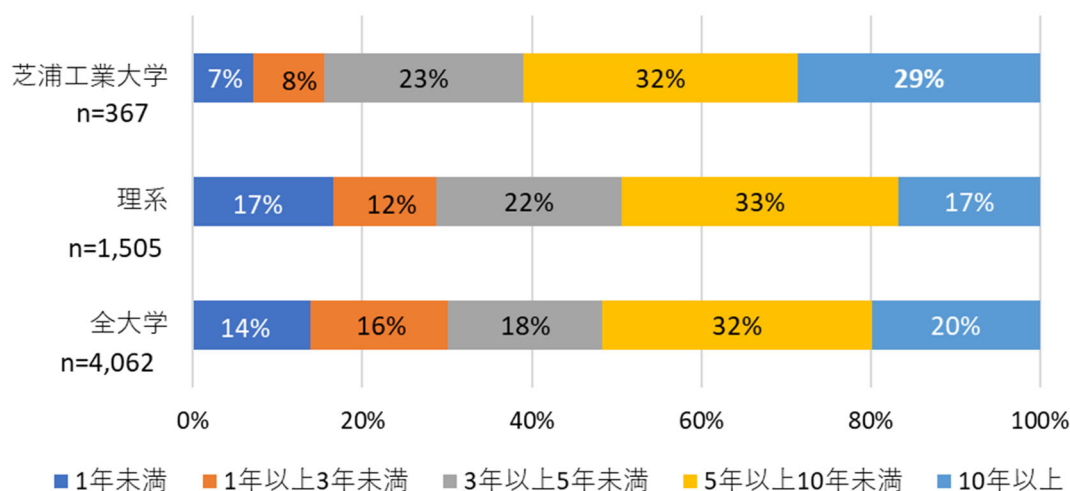
図 9 - 2 現職の就職先の業種（転職・離職の経験者について）(Q11_2)



（４）勤務先での在籍年数

卒業生の勤務先での在籍年数は、「５年以上１０年未満」３２％と「１０年以上」２９％が多いです。全大学や理系と比べて、在籍年数「１０年以上」が多いです(図 9-4)。

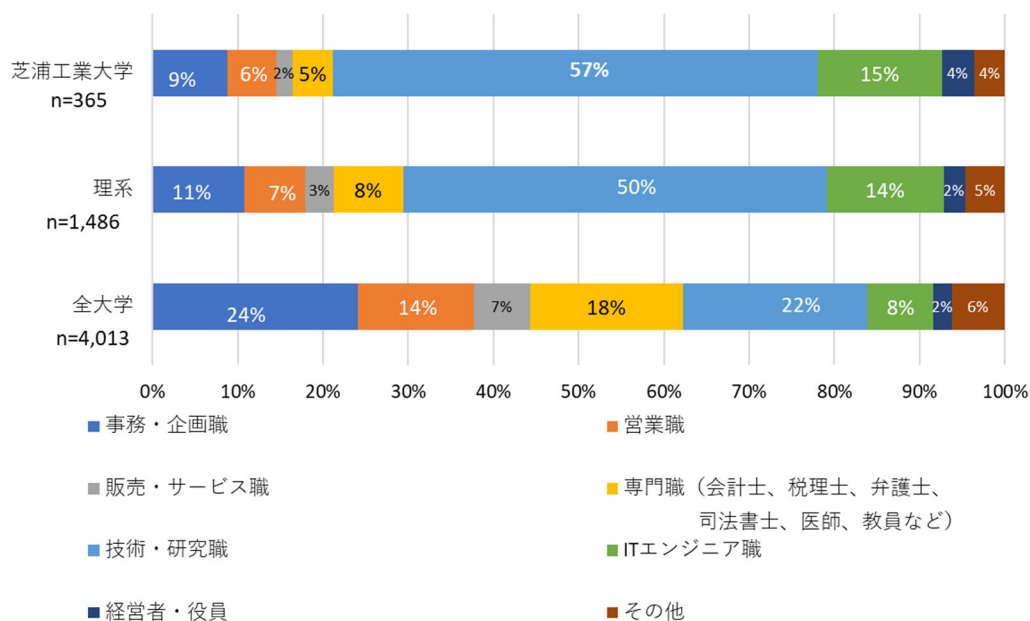
図 9 - 4 現在の勤務先での在籍年数(Q11_4)



（５）現在の勤務先での職種

卒業生の勤務先での主な職種は、「技術・研究職」５７％、「IT エンジニア職」１５％、「事務・企画職」９％です。「技術・研究職」は全大学より 35 ポイント、理系より 7 ポイント多いです(図 9-5)。

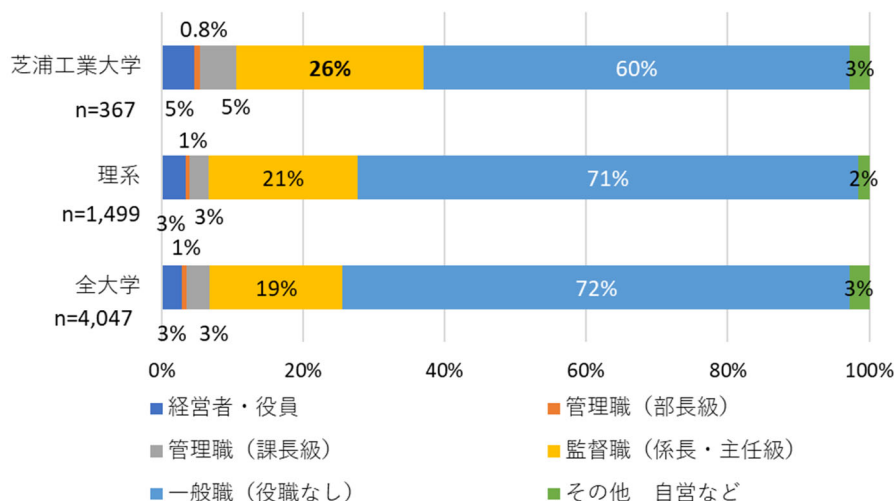
図 9 - 5 現在の勤務先での職種(Q11_5)



（６）現在の職階

卒業生の現在の職階は、「一般職(役職なし)」60%が最も多く、次いで「監督職(係長・主任級)」26%です。「監督職(係長・主任級)」は全大学より7ポイント、理系より5ポイント多いです。卒業生の円滑な昇進・昇格を示唆します(図9-6)。

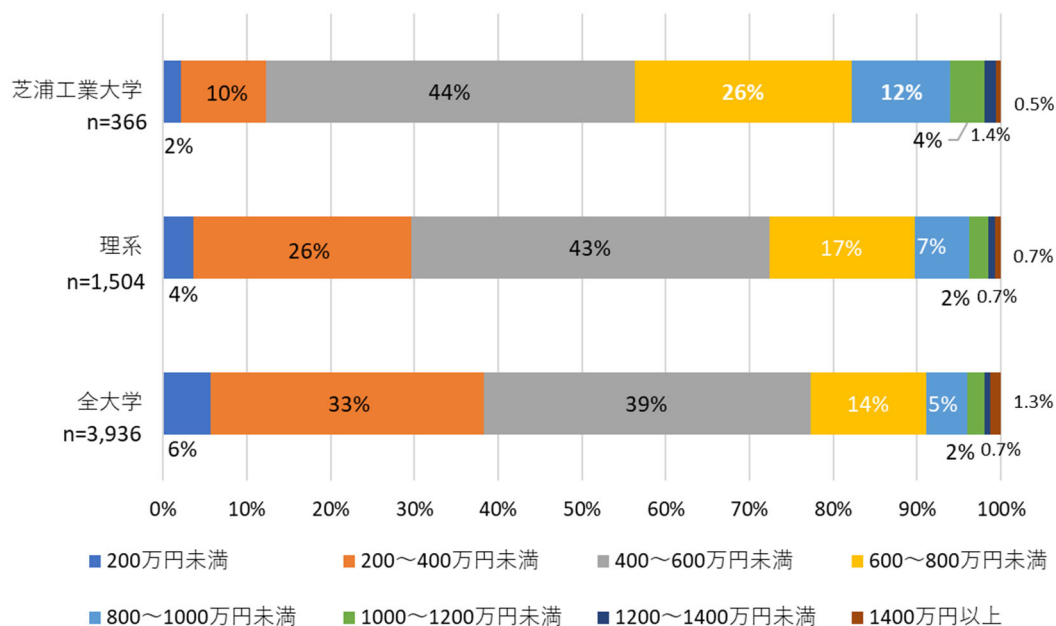
図9-6 現在の職階(Q11_6)



（７）年収

卒業生の年収は「400～600 万円」44%、「600～800 万円」26%、「800～1000 万円」12%です。全大学や理系と比べて、本学の卒業生は比較的に高収入であることを示唆します(図9-7)。

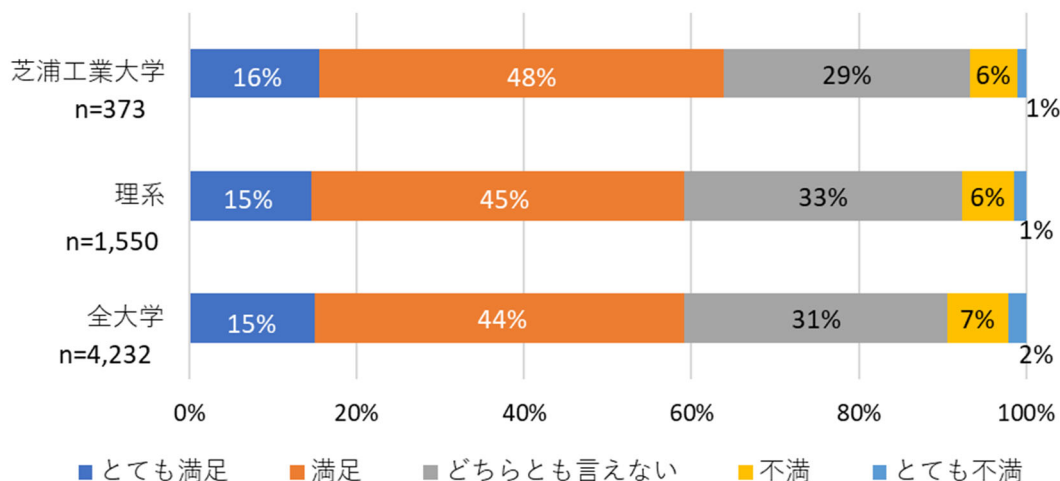
図9-7 現在の年収(Q11_7)



10. キャリアパスの満足度

本学の卒業生のキャリアパスへの満足度は、「とても満足」16%、「満足」48%です。合計で6割以上の満足度で、全大学や理系より多いです(図10)。

図10 キャリアパスへの満足度(Q12)



11. 海外での勤務経験や業務における外国語の使用

本学の卒業生は、約半数が海外での勤務経験や業務での外国語の使用を経験しています(図11-6:49%)。これは、全大学より20ポイント、理系より14ポイント多いです。具体的には、「海外出張の経験がある」(図11-2:26%)、「外国語を使用し、会話や議論をする必要がある(あった)」(図11-3:27%)、「外国語を使用し、メールや文書のやりとりをする必要がある(あった)」(図11-4:36%)等です。なお、「1.海外での勤務経験がある」は6%(図11-1)、「社内公用語が外国語」は3%(図11-5)です。

図11-1 海外での勤務経験がある(Q13-1)

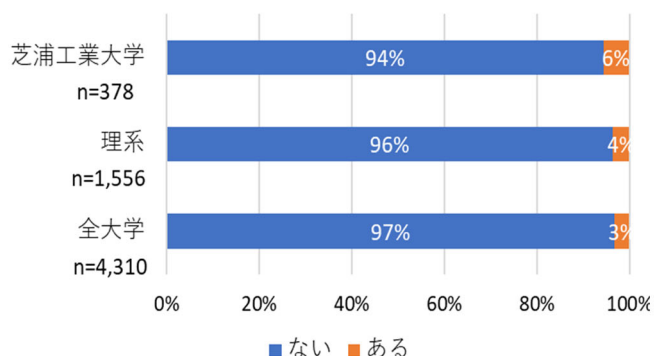


図11-2 海外出張の経験がある(Q13-2)

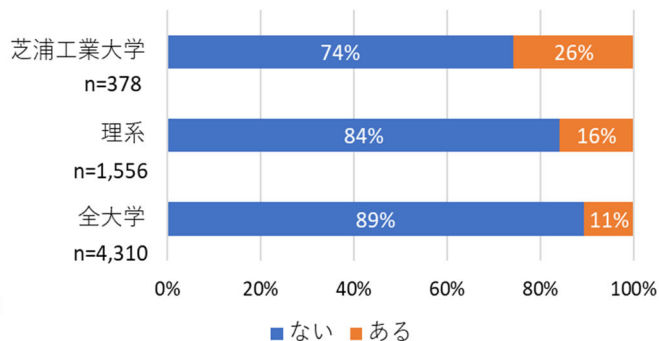


図11-3 外国語を使用し、会話や議論を
する必要(Q13-3)

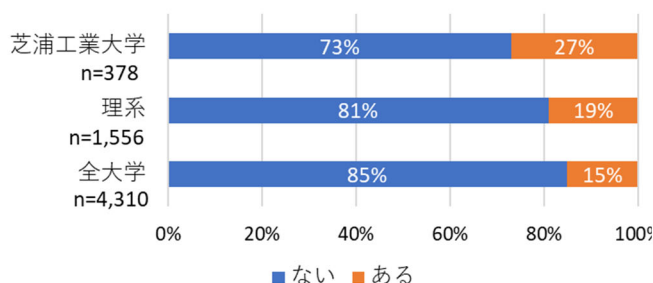


図11-5 社内公用語が外国語(Q13-5)

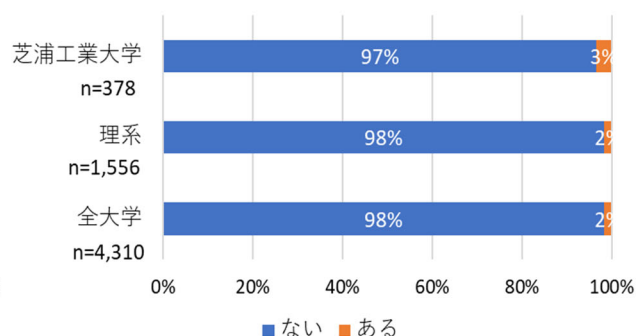


図11-4 外国語を使用し、メールや文書
のやりとりをする必要(Q13-4)

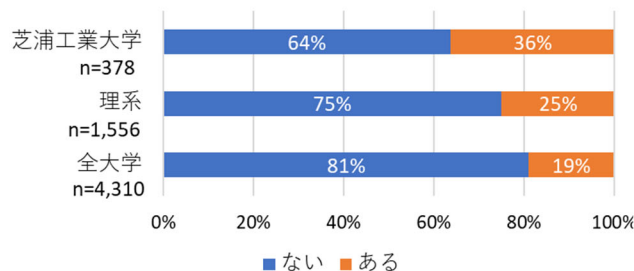
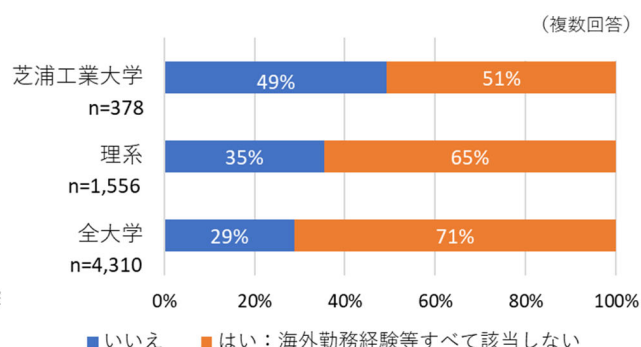


図11-6 どれもあてはまらない(Q13-6)



12. 大学生時代に身につける能力の重要性

卒業生調査では、卒業生に大学時代に身につける能力の重要性を 19 項目についてたずねています（次ページ、表 12・図 12）。選択肢は、「重要」「どちらかといえば重要」「どちらともいえない」「どちらかといえば重要でない」「重要ではない」の 5 段階です。図表は、芝浦工業大学の平均点が高い順に並べ替えています。

点数が高い項目には汎用的技能が並びます。「N. コミュニケーションの能力」4.7 点、「G. 人間関係を構築する能力」4.7 点、「H. 他の人と協力して物事を遂行する能力」4.7 点、「B. 分析力や問題解決能力」4.7 点です。

項目の中程には、「C. 専門分野や学科の知識」4.0 点があります。

点数が低い項目には問題を理解する能力や知識が並びます。「I. 異文化の人々と協力する能力」3.7 点、「S. グローバルな問題の理解」3.7 点、「E. 異文化の人々に関する知識」3.7 点、「J. 地域社会が直面する問題を理解する能力」3.6 点、「K. 国民が直面する問題を理解する能力」3.5 点です。

卒業生は大学時代に汎用的技能を身につける重要性を挙げます。こうした汎用的技能は、専門分野や学科の学修、実際の問題との取り組みから身につきます。したがって、正課や準正課で汎用的技能の学修を考慮する重要性を示唆します。

表12 大学生時代に身につける能力の重要性(Q14)

質問番号	項目名	全大学	理系	芝浦工業大学
Q14N	N. コミュニケーションの能力	4.7	4.7	4.7
Q14G	G. 人間関係を構築する能力	4.7	4.7	4.7
Q14H	H. 他の人と協力して物事を遂行する能力	4.7	4.6	4.7
Q14B	B. 分析力や問題解決能力	4.6	4.6	4.7
Q14R	R. 時間を効果的に利用する能力	4.6	4.5	4.5
Q14L	L. 文章表現の能力	4.5	4.5	4.5
Q14O	O. プレゼンテーションの能力	4.3	4.4	4.5
Q14Q	Q. コンピュータの操作能力	4.5	4.4	4.4
Q14A	A. 一般的な教養	4.4	4.2	4.2
Q14F	F. リーダーシップの能力	4.1	4.1	4.2
Q14P	P. 数理的な能力	4.0	4.1	4.2
Q14C	C. 専門分野や学科の知識	3.9	4.0	4.0
Q14D	D. 批判的に考える能力	3.9	3.9	3.9
Q14M	M. 外国語の運用能力	3.7	3.7	3.8
Q14I	I. 異文化の人々と協力する能力	3.7	3.6	3.7
Q14S	S. グローバルな問題の理解	3.7	3.6	3.7
Q14E	E. 異文化の人々に関する知識	3.7	3.6	3.7
Q14J	J. 地域社会が直面する問題を理解する能力	3.7	3.6	3.6
Q14K	K. 国民が直面する問題を理解する能力	3.7	3.6	3.5

*重要5点、どちらかといえば重要4点、どちらともいえない3点、どちらかといえば重要でない2点、重要でない1点の平均点

芝浦工業大学の点数で項目を並び替え、グループ内最高点は太字、最低点は赤字

5.0

図12 大学生時代に身につける能力の重要性(Q14)

